



第526号

2015年4月1日

発行・自治労連千葉県本部  
千葉市中央区長洲1-10-8 自治体福祉センター内  
TEL 043-227-9393 FAX 043-227-6060  
mail jichiroren-chiba@ia5.itkeeper.ne.jp  
URL http://www.jichirorenchiba.jp/  
責任者・斎藤 実 編集長・實川 理

自治労連ちば青年部県外研修2015

あちプロ

～良く学び、遊び、味わう旅 in 長野県阿智村～

### 学び

超本気の住民自治

職員と住民が協同してすすめるまちづくりとは？  
青年同士語り合えばあなたの悩みが解決するかも？

### 遊び

星空・自然・温泉

日本一の星空の下での仲間との交流  
天竜川の美しい自然、奇岩怪石をがなめる船旅へ  
心癒される温泉郷“屋神温泉”でつるつる美肌に

### 味わう

信州おふくろの味

ごか食堂（配食サービスを行う地元のNPO）の  
信州おふくろの味、おあがりて（召し上がり）！  
五平餅焼き体験、そば打ち体験で食文化堪能

<日程> 7月10日（金）～12日（日）

10日 (金)	千葉	阿智村	①満蒙開拓記念館 ②岡庭元村長講演	交流・星空	屋神温泉 ホテル恵山
11日 (土)	宿	「阿智村の自治体験」コース 「信州の自然と食」コース		交流	松本 エースイン松本
12日 (日)	松本	自由行動 <オプショナルツアー> 「アートと清流に心洗われる 安曇野の旅」			千葉

自治労連千葉県本部 青年部県外研修2015「あちプロ」

問い合わせ：各組合または県本部（043-227-9393）まで  
申込み締切り：2015年6月11日



寺木さん

「学生時代から企画したりするのが好きだった」という寺木さんは、保育部会のイベントで組合に関わり始め、全国から1533人の若手自治体職員が沖繩に集まった「おきプロNEXT」に参加。その後県本部の青年部役員として活躍し、現在は7月の「あちプロ」の企画を練っています。

県北ブロック交流会には2人も企画から参加し、当日は予想外の大盛り上がりでした。

1人で悩みをこらせないためにも、「何でも相談できる相手を見つけてくれる人がいますよ」とアドバイスをくれました。

2人は、「仕事で大事なことはコミュニケーションが大事だけ…」

「親の財力が子の人生を決める世襲社会」が復活する指摘しています▼解決には、富裕層の資産に「国際協調のもと累進課税し、教育への投資を増やすべき」としています。実現は難しい課題ですが、こうした政策を行うことが、「資本主義を民主主義の手に取り戻すための可能性の1つ」と指摘しています▼格差は正の力ギは民主主義の力です。「経済は、わからない」と言って他人任せにすれば、格差と貧困は底なしに拡大し続けることに…。(S)



互いの存在に励まされていると語る（左から）及川さんと寺木さん



## 仕事も組合も…

# 仲間がいるから頑張れる

職場外のつながりが大きな助けに

「子どもと一緒にいると元気になる」と語る及川さん。しかし、かつて「自分自身に負けまくりの『暗黒時代』があった」といいます。「自分の事で精一杯で、目の前の子どもが見えていかなかった。今のように楽しくもなかった」と振り返ります。



及川さん

そんな中で、仕事の悩みへの共感と、経験に基づいたアドバイスが得られる組合の会議が大きな助けとなったといえます。

「友人や同期と話してもグチにしかならない。でも、職場外の同じ仕事をしている先輩と話すことで他の職場の状況もわかり、自分

参加しないのは「もったいない」

寺木さんは、現在1・2歳児を担当する5年目の保育士。仕事では少しづつできること

若者が働き続けられる仕事に

非正規の指導員の仕事は、待遇や不安定雇用から、仕事が好きでも続けられずに辞めざるを得ない現実があります。でも「組合で交渉を重ねることで少しずつだが改善させることができた。若者が働き続けていけるような仕事にしたい」。

### 青年部 県北ブロック交流会



2月13日、船橋で県北ブロック青年交流会がおこなわれ、7単組（船橋、八千代、浦安、野田、大網白里、習志野、匝瑳）の35人が参加。大西青年部長が「あちプロ」への参加を呼びかけながら乾杯の挨拶をし、歓談後はグループ対抗ゲームで盛り上がり、近隣の若手自治体職員同士交流を深めました。

組合は、世界が広がる場所。「自分だけ『おいしい』思っているのか」「組合の企画に（参加しないのは）もったいない」と語ります。

組合は、世界が広がる場所。「自分だけ『おいしい』思っているのか」「組合の企画に（参加しないのは）もったいない」と語ります。

コミュニケーションが大事だけ…

トマ・ピケティの「21世紀の資本」という経済学の本が、世界で130万部、日本で13万部も売れ、話題となっています▼ピケティが膨大な資料と年月を費やして明らかにしたのは、不動産などの資産や株・証券などの金融資産から得られる所得の伸び率を示す「資本収益率（r）」が、国民全体の所得の伸び率を示す「経済成長率（g）」を常に上回るといっています。

▼このままでは、資産を持つ者と持たない者との格差が拡大し、19世紀のような「親の財力が子の人生を決める世襲社会」が復活する指摘されています▼解決には、富裕層の資産に「国際協調のもと累進課税し、教育への投資を増やすべき」としています。実現は難しい課題ですが、こうした政策を行うことが、「資本主義を民主主義の手に取り戻すための可能性の1つ」と指摘しています▼格差は正の力ギは民主主義の力です。「経済は、わからない」と言って他人任せにすれば、格差と貧困は底なしに拡大し続けることに…。(S)

